

フィルムになった風景

vol.10

セットでは再現できない
味わいが評価された

「角館の武家屋敷」



近世の下級武士住宅だった「松本家」

フィルムコミッションの最大の喜びは、映画を見た人が「ロケ地に行ってみたい」と思ってくれること、そして実際に足を運んでいただくことです。

NHK 朝のドラマ『雲のじゅうたん』(1976 年放送)以降、多くの観光客が訪れる仙北市・^{かくのだて}角館ですが、時代劇の舞台としてその名を広めたのは、山田洋次監督作品『たそがれ清兵衛』(2002 年公開)です。国内の映画賞を総なめにし、米アカデミー賞外国語映画賞にもノミネートされました。

下級武士・井口清兵衛(真田広之さん)が藩命で、謀反を企てたとされる藩士・^{よこぜん えもん}余吾善右衛門(田中泯さん)の屋敷に果し合いに入るクライマックスのシーン。舞台となった武家屋敷、松本家を見た山田監督は「幕末の建物が完全な形で保存され、セットでは再現不可能な味わいがイメージにぴったり」と賞賛してくださいました。真田さんは「武士の気持ちに入りやすい。プレッシャーを感じるほどの臨場感がある」と話していました。

これに続き山田監督は『隠し剣 鬼の爪』(2004 年



本羽葺き屋根で大火を免れた「岩橋家」

公開)でも、当地で撮影。かくのだてフィルムコミッション関係者や地元住民から「おかえりなさい」と迎えられた監督は「風格を持った侍の屋敷を表現しなければならず、また角館にお邪魔した。下級武士の暮らしを再現できるのは角館のほかにはない」と、選んだ理由を



『たそがれ清兵衛』の撮影風景

話してくださいました。

震災後の東北離れ、桜の開花時期に左右される観光客の数。知名度は上昇しつつありますが、さらに地域を発展させるためにも「映画の街」として観光振興や地域活性化を図りたいと思っています。

(執筆/かくのだてフィルムコミッション会長 坂本 洋)

◆映画「たそがれ清兵衛」

2002年11月公開

時間: 129分

監督: 山田洋次

出演: 真田広之、宮沢りえ、田中泯 ほか